

特集 「原発事故と新潟の子育て」 フクシマは何を発信しているか

3・11の東北大震災・原発事故は、未曾有の被害をもたらした。福島に隣接し、世界最大の出力の柏崎刈羽原発を抱える新潟県だけに、県民は大きなショックを受けた。

阿賀野川水系をはじめ、放射能による食物や土壌・森林など自然環境への汚染が次第に判明するにつれ、母親の子どもへの将来にわたる健康被害の不安が高まっている。福島県内のある女子高校生が、将来子どもを産めないままで言わざるを得ないほど深刻な状況にある。

一旦事故が起きると、どのような状況になるかを予想だにできなかったし、それができない状況に陥っていた。またヒロシマ・ナガサキの被爆体験にもかかわらず、私たちは、原子力発電が立地される地域の問題としてだけに限定して受け止めて

きた嫌いがある。

こうした背景には福島原発の過酷事故がおこるまで、原子力発電は、いわゆる原子力ムラの人たちによる「安全神話」で誤魔化され続けてきたのではないか。

なぜこのように広く「安全神話」が行き届いたのか、学校教育ではどう扱われてきたかを検証し、柏崎刈羽原発を抱える新潟の子どもに、学校で原子力問題について、事実にしてほんとうのことを教えてもらいたいと願って、本特集を企画した。と同時に私たち市民も、原子力問題にいつそうの知見を得、放射能汚染から子どもたちを守る努力を重ねたい。こうしたとりくみをフクシマは発信していると考える。

(編集部)